

わ 分かる と 快感!

# Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

## お墓から時代を考える?

(首都大学東京 2011年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

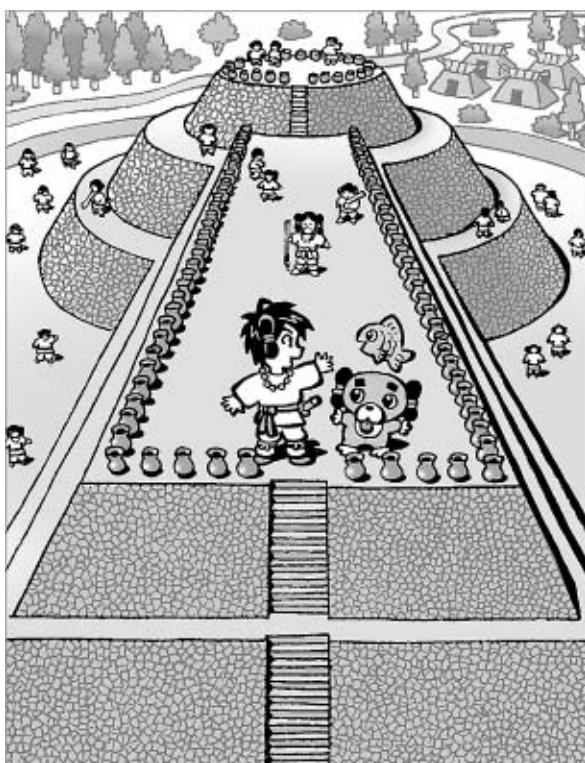
弥生時代の後半には、大きな墳丘(土や石を盛って造った小さな丘)を持つ首長の墓が造られるようになりました。3世紀後半には、西日本で、より大きな墳丘を持つ墓が現れました。墳丘の表面には石がしかれたり、埴輪が並べられたりしました。こうした墓に着目して、この時代は「古墳時代」と名づけられました。

古墳時代は大きく三つの時期に分けられると考えられています。三つの時期で、古墳に見られる違いについて触れながら、社会がどのように変わっていったと考えられるか、説明しなさい。

古墳時代は3世紀後半～7世紀ころの時代です。まだ文字が普及していなかったため、この時代の様子を知るには、残されたモノがたより。古墳は丘のような形をしたお墓ですが、この時代の様子を知る大きな手がかりと考えられ、時代を表す名前ともなりました。なぜ、お墓が大きな手がかりになるのでしょうか。

### お墓がリーダーを表す

弥生時代までは地域ごとにさまざまな形の墓が造られていましたが、3世紀後半に入り、墓の形や構造が統一されていきます。このことは、地域ごとに別々の支配者が治め、異なる文化を持っていた弥生時代とは異なり、3世紀後半以降には、地域を超えて影響を及ぼす強い勢力が現れたことを示すと考えられています。右の図は4世紀ころまでに造られた古墳の分布です。広い範囲で造られたことがわかりますね。



イラスト・瑞木匠

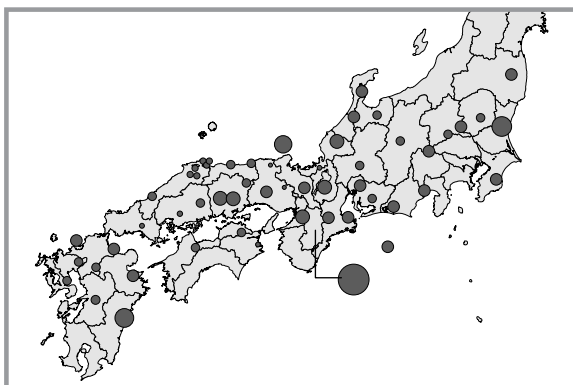
の作業員が必要という計算もあります。これほど大規模なお墓に葬られるのは、その時代のリーダーのみ。つまり、古墳を調べれば、どのような人がリーダーだったのかがわかるのです。

### 人が変わればモノが変わる?

4世紀ころまでは、銅鏡や勾玉といったまじないに使われる道具が墓に納められており、儀式を執り行う人が古墳に葬られていたと考えられます。4世紀末～5世紀ころになると、武器や馬具など、戦いの道具が納められるようになり、武力を持った人物が葬られていたと考えられます。また、このころに古墳の大きさはもっとも大きくなります。6世紀以降になると、古墳は小規模なものになり、国のリーダーだけでなく、地方の有力者が家族で古墳に入るようになります。地方の人々は権威にあやかって古墳を造っていたが、国のリーダーは大きな古墳を造らなくなっていった……。そんな時期だったことがわかりますね。【Z会・河原井彩】

## 残されたモノを手がかりに

古墳は大きなものでは全長500m近くになります。その規模の古墳を造るには600万人以上



### ! 今回の教訓

文字だけでなく、残されたモノを調べることも、当時の様子がわかります。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は6～8歳向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。